

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 日本国語教育学会

(代表者 桑原 隆 会員数 約2,600人)

T E L 03-6801-5951

1 前文

全体としてはよく工夫された良問で構成されているが、本試験同様、50 ページ超の問題量は減らされていない。本試験より追・再試験の方が難度の高い傾向は新課程でも続くか。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

第1問 キーワードの示す具体的な内容があまり示されておらず、本文中の比喩表現も受験生には馴染みがなく、抽象度が高い。注6の記述は本文の内容と一致しているか疑問。

問1 訓読みと音読みのバランスがよくない。

問2 妥当。ただ、選択肢が同じ語の入れ替えに終始しており、工夫が必要。

問3 妥当だが、問2と選択肢の内容に重複がある。

問4 選択肢も三行にわたり抽象的な語彙を用いており、素材文の内容を説明できているか疑問が残る。正答①「人間の自明で自動的な自己の存在への了解の仕方」は本文そのままだが、説明になっているか、また「現在の機械が変更をもたらす」も表現として違和感がある。

問5 ②「感覚的に共有」は説明として抽象的で適切ではない。選択肢を抽象的にして受験生が解けなくなる作り方には問題がある。また、③「連続的に展開」、④「論理的に証明」という表現は設問の「表現に関する説明」と言えないだろう。③「偉大な思想家たち」も本文ではホップズしか適切に触れられていない。第1問で表現を問うのは難しいと言える。

問6 妥当だが、【資料】が「本文の続き」なら、独立した【資料】にした作問意図が不明。

第2問 1922年発表の本文を共通テストで出題すること自体には価値はあるが、注の量が多すぎる。また、リード文に「おえい」に触れるならば問題があってもよい。

問1 語彙を問うのはよいが、選択肢自体の語彙が難しい。(ア)「にべもなく」から正答④「すげなく」を選ばせるのは難しい。

問2 妥当。

問3 妥当。小説における設定を理解させる問題として出題しており、適切。

問4 小説ならではの比喩表現の読み取りとして良い問題。

問5 妥当。ただ、問い方は異なるが「玩具」という問4同様の比喩表現の内容を問うており、問われていることが重複しているのが気になる。

問6 問7を含め、本文で読めなければならぬ内容を基本的に押さえられている。

問7 選択肢の分量、数は多いが、丁寧に読めば解ける。⑤「お絹の関心の強さ」、⑥「ほほえましく見つめるお絹の姿」はここまでの設問でも問うており、別の外し方もあろう。

第3問 素材文は本試験と比べると、内容もわかりやすく妥当。

問1 ①は【資料I】を読まずとも正答を選んでしまう。④「よくある」「ない」という言葉は「仮眠をとることがあるか」という質問と「午前中調子が悪いことがどの程度あるか」という質問の

回答としてどちらもあり，今回の問題は図2の一番上の帯グラフ内の回答の中での比較だが，その他の「仮眠をとることがあるか」の回答の帯グラフとの縦軸上の比較のようにも捉えられる。また，【資料Ⅰ】が選択肢として四つもあり，バランスが悪い。

問2 妥当。

問3 問題としては成立しているが，架空の書き手のレポートの「方針」について考えさせることについてはどの程度意味があるか，疑問である。

問4 問題は成立しているが架空の生徒が作成する【メモ】は実際の高校生の実態に合っていない。完結した学習活動を示してほしい。

第4問 本文の状況把握がしやすく，受験生が解答に集中して取り組める問題文。本歌取りの知識を持つ受験生にとってはやさしかった。設問には，時間配分に配慮したものもみられる。

問1 妥当。

問2 妥当。

問3 妥当。受験生は内容をきちんと踏まえる必要がある。

問4 本文の内容から繋がり，設問に工夫もみられるが，言語活動に寄せて無理に作っている感がある。配点も疑問。複数テキストを提示した際の，資料に対する設問が類似の傾向になっている点は一考の余地がある。(i)(ii)とも良問だが，正答に寄せた誤答がもう一つずつあってよい。(i)の「解釈」と「分析」という言葉は受験生を混乱させたか。

第5問 対句など漢文らしい表現が用いられており評価できる。一方で，本試験に比べ内容が抽象的で受験生には読みづらい。設問自体は第4問とのバランスが取られ，妥当。

問1・問2 句法や語彙の知識だけで解けてしまう。本文に基づく内容吟味も求められる。

問3 良問。ただ，問4や問6と重複する点では一考の余地がある。

問4 妥当。選択肢に紛れがなく，受験生に他の問題のヒントを与える設問になっている。

問5 妥当。押さえるべき点を問うている。

問6 やや難。①③は誤答と見抜け，②④は書き下し文の文意が通るかどうかで判断する必要があるが，受験生にとってはこの解釈を取ることが難しい。

問7 妥当。問うべき点を問うており，受験生にとって親切な作りになっている。

3 総評・まとめ

全体として本試験より難度が高いのは追・再試験の場合はやむを得ないとして，大きな問題傾向の変更は見られず，受験生も問題を素直に受け止めたと考えられる。昨年度同様，センター試験時代に先祖返りしたような従来型の問題も，特に第5問で見られた。

4 今後の共通テストへの要望

前年度及び本試験と比べ第3問の出題の形式が定まっていない。受験生の日常の学習成果が発揮されるよう作問してほしい。本試験同様，配点に見合う設問か否かは再考を。